決算に関する特別委員会で令和７年度決算を認定

令和７年度一般会計歳入歳出決算ほか３特別会計歳入歳出決算については、監査委員を除く全議員で構成される決算に関する特別委員会（委員長＝明戸真弓美、副委員長＝山本剛）を設置しました。９月２４日から審査を行い、いずれも委員会において認定することに決定しました。



◀決算に関する特別委員会の進行の様子

並木議長（左）　明戸委員長（中央）　山本副委員長（右）

令和７年度　決算の概要

		予算現額	決算額		歳入歳出差引残高
			歳入（収入率）	歳出（執行率）	
一般会計		1,466億7,730万5,000円	1,373億35万9,819円 93.6%	1,340億5,666万1,200円 91.4%	32億4,369万8,619円
特別会計	国民健康保険事業	233億7,205万6,000円	226億3,520万5,656円 96.8%	221億4,663万8,696円 94.8%	4億8,856万6,960円
	後期高齢者医療	57億2,700万円	58億3,169万2,371円 101.8%	56億7,840万4,706円 99.2%	1億5,328万7,665円
	介護保険事業	209億1,311万2,000円	203億6,280万8,178円 97.4%	194億3,780万7,657円 92.9%	9億2,500万521円

監査委員による決算審査の報告

令和７年度決算審査は、関係諸帳簿や証拠書類との照合を行うとともに、関係職員から説明を聴取するなどの方法により実施し、その結果、決算計数に誤りはなく、各会計の決算内容、予算の執行状況等も適正と認められました。また、財政健全化法による、令和７年度決算に基づく健全化判断比率についても、審査の結果、適正である旨の意見を付し、区長に提出しました。

令和７年度予算は、予算計上した施策を着実に実行するとともに、これまで以上に効果的・効率的な執行に努め、常に問題意識を持って取り組むことが重要という認識の下で執行されました。

こうした中、区は基金残高を減らすことなく、健全で持続可能な財政基盤を堅持していくための取り組みに努められたものと考えられます。

その結果、実質収支は黒字、基金残高は前年度を超える額となるなど、財政運営は健全であると評価できます。しかし、区の財政環境は依然として予断を許しません。小中学校の建替え等の大規模な財政需要が控えるなか、今後の需要急増に向けた財政的備えも不可欠です。行政改革の推進等による歳出の抑制や特別区民税の収入率向上などの取り組みを推進していく必要があります。

そのため、財政フレームを踏まえ、社会情勢を注視し、財政需要を適切に把握していくことが重要です。さらに、行政評価における事務事業の廃止を含めた事業の見直しや新たな財源確保など、持続可能な行財政運営とサンセット方式の徹底に努め、歳入歳出の両面から健全な財政運営に向けて前進されることを期待し、報告といたします。

委員会での審査経過

９月２４日
◆一般会計歳入歳出決算
〇監査委員意見（斎藤泰紀監査委員）等、書面配付
〇総括質疑（６会派）
※主な質問項目は下記参照
〇歳出審査（議会費・総務費）
９月２８日
〇歳出審査（総務費）
９月２９日
〇歳出審査（総務費・民生費）
１０月１日
〇歳出審査（民生費）
１０月２日
〇歳出審査（民生費・衛生費・環境清掃費）
１０月５日
〇歳出審査（環境清掃費・産業経済費・土木費・教育費）
１０月７日
〇歳出審査（教育費・公債費・諸支出金・予備費）
〇歳入審査（一括審査）
〇採決　採決の結果
認定することに決定
◆国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算
◆後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算
◆介護保険事業特別会計歳入歳出決算
〇審査
〇採決　採決の結果
認定することに決定

主な総括質疑

自民党
北城　貞治 委員
〇財政フレームに基づいた健全な財政運営について
〇障がい者福祉対策について

共産党
斉藤　邦子 委員
〇介護保険について
〇職員数の変遷、公務員の大切さについて

ゆいの会（都民ファースト・国民民主・あたらしい党・無所属）
宮本　舜馬 委員
〇路上喫煙の過料設定について
〇外国人の生活ルールへの対応について

立憲民主党
鬼頭　あきゆき 委員
〇デジタル版プレミアム付き荒川区内共通お買い物券事業について

公明党
森本　達夫 委員
〇防災について
〇高齢者等の住宅確保要配慮者に対する居住支援の強化について

あらかわ子育ての会
山田　晴美 委員
〇高齢者のフレイル予防（ｅスポーツの展開）について

※総括質疑の模様は荒川区議会ホームページでも映像公開中です。
（※各二次元コードから視聴できます）